

平成30年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市ふれあい温泉 むつ市湯野川温泉濃々園 むつ市野平高原交流センター むつ市まちなかの駅かわうち	
指定管理者	団体名	指定管理者 むつ市川内町商工会
	代表者	会長 半田 義秋
	所在地	むつ市川内町川内115-9
指定期間	平成29年4月1日～令和2年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	関係法令等を遵守し、利用者が快適に施設利用できよう、施設の設備及び備品等の維持管理を適正に行う。 市民や利用者の意見、要望等を考慮し、平等に利用できるようにする。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区分	計画額①	実績額②	増減(②-①)
収入合計(A)	29,950	29,858	△92
うち利用料金額	10,600	10,124	△476
うち指定管理料	12,864	12,864	0
支出合計(B)	29,746	30,201	455
うち人件費	13,732	13,140	△592
収支差(A-B)	204	△343	△547
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	75歳以上の増加により、入浴料収入が減少傾向になっている。 わきのさわ温泉開業により、脇野沢地区の利用者が減少した。 家族連れや小グループの道の駅利用者が増加した。		

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区分	計画①	実績②	増減(②-①)
	ふれあい温泉	26,050	23,510	△2,540
	濃々園	16,000	15,688	△312
	交流センター	20,600	21,894	1,294
	まちなかの駅	18,250	18,250	0
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施(有・無) ・施設の老朽化が指摘されている。(雨漏り、汚れ、寒い、タバコの煙など。) ※出来る範囲の修繕、清掃、喫煙場所設置を指示、実施している。 ・職員の接客マナーが良くない。 ※職員に注意し、接客の指導をした。 ※専門講師による、接客指導を実施します。 (・=利用者の声 ※=対応状況)				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収入	支出
オリジナルグッズ商品開発販売事業	474	171	85
ご当地メニュー開発販売事業	726	653	363

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：要改善）

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	A
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	A
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	A	A
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	A
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	A
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	A

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

むつ市から、指定管理制度を受託して、ふれあい温泉川内・湯野川温泉濃々園・野平交流センター・まちなか駅かわうちの4施設の管理運営をし、地域住民等に保養休養の場を提供し、健康増進施設、交流施設、地場産品販売施設として、利用者に対するサービスの効果効率を向上させ、もって地域の福祉及び川内地区の観光振興に務めた。

総括的概要

指定管理事業については、道の駅かわうち湖の来訪者増加を図るため、SNSでの情報発信や、道の駅限定切符の販売や人気メニューの「ダムカレー」の販売促進を行い、来場者数と売上の増進を図り

ました。

また、ふれあい温泉・濃々園につきましては、施設の老朽化に伴う軽微な修繕費の増加や、入館者の高齢化に伴う売上高の減少が指定管理事業の財政課題となっており、今後一層の改善を図っていかねばならないと考える次第です。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

全体として施設の老朽化に伴う修繕費の増加や温泉施設の利用者の減少について、指定管理者の経営努力だけでは対応しきれない部分もあるため、施設のあり方について検討する必要がある。

ふれあい温泉及び濃々園は、利用者の減少や利用者における75歳以上の方の割合が増えると収入減につながるため、若い世代の利用者を増やすような取り組みが必要である。今後も施設維持に必要な経費の縮減と利用者増加につながる取り組みを積極的に実施してほしい。

野平高原交流センターは、昨年よりも来館者数・売上収入ともに増加しており、引き続きダムカレ一等のご当地ものを中心に利用者増加につながる取り組みに努めてほしい。

指定管理施設は川内地区の観光客誘客の重要な拠点であり、4施設を中心に川内地区の周遊や観光振興に寄与する計画を実施し、指定管理施設の利用者や収入の増加につなげてほしい。